

令和6年度

仙美里小規模多機能型居宅介護事業所
「陽だまりの里」

外部評価結果

■事業所自己評価

■小規模多機能型居宅介護

「サービス評価」総括表

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
1. 初期支援（はじめのかかわり）	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⑥	前回の課題について取り組みましたか？		5	3		8
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	1	7			8
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？		8			8
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか？	3	4		1	8
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	1	4	3		8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	・ケアマネジャーと担当職員が連携し、アセスメントや支援内容の検討をしていく体制を整える		
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない		
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	・事前の情報で支援内容を共有できていた ・ケアマネジャーと担当職員の連携が不十分だった		
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・ケアマネジャーに利用者の変化を相談、報告し、支援内容を検討できていた ・利用者によって支援内容は違うが、わかっていないので、その時に必要な支援をしている ・アセスメントはできている ・会議やミーティングで話し合うことができた		
⑤ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・支援内容の検討はできていない ・連携できていない ・担当利用者のアセスメント内容の理解不足		

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
- サービス開始までの期間が短く、事前に情報共有することが難しい - 担当利用者のアセスメント内容を定期的に確認し深く理解する - 情報がない時もある - どんな支援が必要かわからないといけない	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・アセスメント内容を定期的に確認し、気付いたことがあれば、ケアマネジャーに相談する

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⑥	前回の課題について取り組みましたか？		2	5	1	8
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？		4	4		8
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？		5	3		8
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？		4	4		8
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？		6	2		8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	・「～したい」を実現できるよう、ケアプランの再確認を行うことでケアの統一を図る	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A：よくできている B：おおむねできている C：あまりできていない D：まったくできていない	・利用者さんが～したいという意思をきくことはあるが、「何もしたくない」と答える方が多い ・ケアの統一が図れるよう情報共有は行ったが、プランの再確認は十分にできなかった
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	・ケアの統一が図れるよう、情報の共有を行った ・ミーティング等で情報共有し、改善できるようにしている ・～したいがわかっている方もいれば、わからない方もいる	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・ケアプランの再確認が十分に行えなかった ・ケアプランがいつ更新されているのかわからないことがあり、プランの変更できなかったこともある ・本人の～したいがわかっていない ・日々の関わりに対する振り返りが不十分	

III. 現状の取組みについて

I－①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・全体としてケアプランにおける、本人の～したいを共有することが必要 ・目標を理解していない、ケアプランに沿った支援ができていない ・日常の～したいについて職員間で検討し、統一した支援をする	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II－④、IIIを中心に導き出した結果

・ケアプランへの理解を深め、自己実現の尊重へつなげていく

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
3. 日常生活の支援	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		5	2	1	8
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？		2	5	1	8
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	2	6			8
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	1	5	2		8
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	2	6			8
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	1	7			8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画			
・聞き取り出来た内容の共有に努め、それをケアの改善につなげる			
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A：よくできている	B:おおむねできている	C:あまりできていない D:まったくできていない
・日々の関わりで、気づいたことは情報を共有し、ケアの改善につなげた			
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点			
・自宅での様子や体調の変化等を気かけ、利用者さんとの会話で知った情報を共有している ・状況に応じて、対応や支援の方法を変更している ・記録を確認し、情報収集して利用者に関わっている			
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点			
・共有した内容を知らない人がいる ・十分なケアの改善にはいたらなかった			

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・以前の暮らし方を聞けていない ・自分で思いを伝えられない方の心の声を意識し、日々の申し送り等で変化の共有をしケアの統一を行う	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・聞き取り出来た内容の共有に努め、それをケアの改善につなげる（継続）

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⑥	前回の課題について取り組みましたか？		3	3	2	8
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？		5	3		8
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？		5	3		8
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？		6	2		8
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	1	3	4		8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	・地域だけでなく外部との交流を行うことで、楽しみを持って生活を送れるよう支援をしていく	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない	・外部との交流も行っているが、楽しみを持って生活を送っていただけるまでの交流は十分に行えていなかった
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	・オレンジカフェや陽だまり喫茶、忘年会などの行事で地域の方々との交流はあった ・地域交流の行事を多く開催できた ・小学校の運動会を見学できた	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・民生委員の方が誰かわかっていない ・外部の方との交流はできていない	

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・病院受診等、有償運送サービスの利用が増え、家族との関わりが減った様に思う ・利用者と家族の関係性が途切れないように家族のできることは家族対応をお願いしたほうが良い ・利用者と外部の人たちとの交流がない ・自宅でどう過ごしているかわからない	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・地域や家族との関わりを意識した暮らしの支援の体制を作っていく

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		3	2	3	8
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？		3	5		8
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	3	5			8
③	日々の関わりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	1	7			8
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？		8			8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画			
・家族や地域の方々との連携を密にし、柔軟な支援を行える体制を整える			
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている D:まったくできていない	C:あまりできていない	
・ラインワークス等を活用し、連携をとることで柔軟な支援を行えた			
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点			
・急な泊りや受診等の、本人、家族にの希望に沿った支援対応している ・申し送りやミーティング等で情報を共有し、柔軟な支援を行っている			
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点			
・家族によっては、関係性を築きにくいケースがある ・家族との関わりが少ないため、密な連携までにいたっていない			

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・地域の資源を理解していない ・ ・	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・柔軟な対応を継続できるよう、家族や地域との調整を行っていく

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
6. 連携・協働	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		5	1	2	8
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？		2	2	4	8
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？		1	1	6	8
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？		1	1	6	8
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？			4	4	8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	- 地域の相談窓口として地域を知り、地域での困りごとなどを吸い上げていく体制作りをしていく - 会議に参加できない職員にも、議事録等の周知を行うことで、スムーズな連携を行える体制を作る	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A: よくできている B: おおむねできている C: あまりできていない D: まったくできていない	- お便り等を通じて、地域の相談窓口としての周知を行えた - ラインワークス活用をし、会議に参加できない職員に議事録の周知ができた
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	- 会議で議事録を聞いたり、ラインワークスでいつでも会議録を見返せるようになった - 陽だまり便りで、困りごとがある方に相談していただけるよう伝えている .	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	- 行事以外で、地域の方と関わる機会がないので、困りごとを直接聞く場がない - 地域に困りごとがあるかわからない	

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
- 自治会の行事に参加したことがない - 子供たちに来てもらう機会を作りたい - 出席できる行事には、参加した方が良かった .	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

- 地域の相談窓口として地域を知り、地域での困りごとなどを吸い上げていく体制作りをしていく（継続） - 会議に参加できない職員にも、議事録等の周知を行うことで、スムーズな連携を行える体制を作る（継続）

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
7. 運営	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		6		2	8
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか？		6	1	1	8
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？		7		1	8
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？		6	1	1	8
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか？		6	1	1	8

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	・会議には全員意識を持って参加し、意見するときは提案する形で行う ・理念や部門の目標を意識して日々の業務に努める		
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている	B:おおむねできている	C:あまりできていない D:まったくできていない
・自分の役割には、きちんと責任を持って、日々取り組んでいる			
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	・本人や家族から、意見や苦情等があった場合は、その都度報告し、共有している ・事前の情報で確認し、意見の内容はまとめている ・部門の目標は意識して取り組んでいる ・会議以外でも、疑問に思ったことには提案の発言をしている		
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	・会議ではすべてを発言できない時もある ・会議が長くなると、集中力がかけてしまう		

III. 現状の取り組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・地域の方との交流は、行事の時しかないので、意見を聞く場がない ・案内やお便り等に間違いがあることがあるため、事前のチェックを入念に行う ・地域に必要とされているかわからないため、	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・意義のある効率的な会議となるよう、意見するときは提案する形で行う ・理念や部門の目標を意識して日々の業務に努める（継続）
--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
8. 質を向上するための取り組み	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		6		2	8
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	1	6	1		8
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか		3	2	3	8
③	地域連絡会に参加していますか		1	1	6	8
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		7		1	8

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画			
・感染症対策の内部研修の実施をしていく ・ヒヤリハットの改善後に評価をする			
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている	B:おおむねできている	C:あまりできていない
D:まったくできていない			
・ヒヤリハットの改善後の評価を会議等で行った ・感染症対策の内部研修は年度内に実施する予定である			
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点			
・ヒヤリハットは会議内で振り返り検討し、再発防止に努めている ・研修がある際はなるべく参加している			
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点			
・内部研修はまだ実施できていない ・参加できる研修は参加している			

III. 現状の取り組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・資格取得やスキルアップする研修がなく、スキルアップのため自宅で勉強するじかんの確保できない ・感染症対策の内部研修は年度内に行う	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・積極的に研修に参加をしていく ・リスクマネジメントを意識して日々の業務に努める

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1月14日
9. 人権・プライバシー	メンバー	高田初枝・山田周司・城浦君恵・相馬祐子・加藤千尋 田中葵・武田浩幸・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		6		2	8
①	身体拘束をしていない	1	6		1	8
②	虐待は行われていない	5	2		1	8
③	プライバシーが守られている	1	7			8
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	2	3	2	8
⑤	適正な個人情報の管理ができて いる		8			8

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	・スピーチロック（言葉での抑制）を意識して利用者と接する	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A: よくできている	B: おおむねできている
・言葉使いには気を付けている	C: あまりできていない	D: まったくできていない
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	・抑制のない言葉を意識している ・できるだけ利用者の話したいことは最後まで聞くようにしている	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・スピーチロックとなっていることがある ・忙しく余裕のないときは意識した対応ができていない時がある ・夜勤時、忙しい時など口調が強くなってしまうことがある ・こちらの問いかけに対し、言葉ではなくうなずいたりする利用者もいる	

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・個人ファイルの管理は、引き出しボックス等に収納できるようにした方が良いと思う ・利用者の声が出てくるような会話の仕方を考えながら接するようにしないといけない	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・スピーチロック（言葉での抑制）を意識して利用者と接する（継続）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 本別町社会福祉協議会	代表者	会長 福家 立雲	法人・ 事業所 の特徴	本別町社会福祉協議会が運営する事業所。 本別町市街地からは離れた所に立地している。 地域住民の方々の理解と協力を得ながら運営しており、利用者の方々の住み慣れた地域で生活していただくという考えのもと、地域密着型の介護保険事業所としてその機能を担っている。
事業所名	仙美里小規模多機能型居宅介護事業所 「陽だまりの里」	管理者	管理者 高田 初枝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	7 人	人	人	1 人	人	4 人	1 人	14 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
事業所自己評価 の確認	・一人ひとりが問題点や改善点について考え情報共有を行い、それを基に月に1つずつでも具体的な改善事項を実施していくことで更なる業務改善へとつなげていく。	・個々の職員の意見を集約しリーダー会議や全体会議の中で業務改善へ向けた取り組みを話し合い、職員間で情報共有し、実施することができた。		・さらなる情報共有を進めるとともに、職員間の連携を密にすることで、チームとして業務改善を進めていく。
A. 事業所の しつらえ・環境	・引き続き敷地内の整理を行い、環境改善に努める。 ・更なる ICT の活用が行えるよう、職員間の連携や内部での研修を進めていく。 ・業務上必要な書類はすぐに閲覧ができるように整理する。	・事業所内の書類等の整理は進み、整理整頓が行えている。 ・LINE WORKS の活用による情報伝達や連絡を行っており効率化が図られている他、介護ロボット補助金の活用による総合的な見守りシステムの導入を申請中。 ・ケアマネ業務に係る書類や利用者に係る書類をすぐに閲覧できるように整備を行った。	・事業所を訪れる機会があまりないため、環境がわからない。	・引き続き敷地内の整理を行い、畑作りなどを通じて地域住民や推進委員が来所できる機会を増やし、環境の改善を行う。 ・ICT 機器の活用を推進し、業務の効率化が図れるよう内部研修を行っていく。
B. 事業所と地域のかかわり	・引き続き陽だまり喫茶やオレンジカフェを開催することで、地域の皆様とのつながりや相談体制を強化していく。 ・地域の皆様との連携を強化できるよう、報告、連絡、相談がしっかりと行える体制を整える。	・陽だまり喫茶（オレンジカフェ）の開催やお便りを通して相談体制の周知を行っている。 ・地域の方からの相談があった場合は迅速に関係機関や社協地域福祉への情報提供を行い、ワンストップで対応できるようにしている。 ・地域の自治会の集会等へ出向いての事業所の紹介や相談受付等を行うまでは至っていない。	・今年度から開催された運動会は、利用者の方も地域の方も参加、交流ができて良かった。 ・施設の存在は何となくわかっていたとしても、どんなところで何をしているところなのか、どうしたら利用できるのかがわからないという地域住民の方が多いのではないかな。	・施設を知ってもらい、行事等への参加をしていただけるよう、戸別訪問を実施していく。 ・介護サービスの利用の流れ等、ホームページ等で周知していく。 ・地域交流の行事や陽だまり喫茶を通じて相談体制の周知を継続していく。
C. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取り組み	・地域の行事に職員が積極的に参加することで、相談へとつながる機会を増やす。 ・陽だまり喫茶やオレンジカフェ以外でも、気軽に来所いただき見学ができる機会を	・地域に訪問をして、サービスの説明や相談を受ける機会を設けるまでは至っていないが、引き続きお便り等を通じた相談体制やサービスの周知は行っている。	・本当は定期的に地域を回ることが良いと思われるが、職員数に限りがある中でどう工夫して行っていくかが課題ではないかな。	・業務の効率化を図る中で、定期的に日程を決めた上で、ケアマネ等が地域の戸別訪問をする機会や、地域の会議で説明する機会を作っていく。

	設ける。 ・社協のホームページを活用し、動画などによる事業所のアピールを行っていく。 ・管理者やケアマネージャーが地域を訪問する機会を増やし、事業所の説明、相談を受ける機会を増やしていく。	・一般の方の随時の事業所の見学受入や体験については行なえる体制としているが、アピールができていない、 ・社協ホームページにはイベントの情報等を随時掲載し、事業内容を紹介することができている。 ・ケアマネ等が地域を訪問する機会については、なかなか増やすことができていない。	・介護サービスを必要とする人は家にこもりがちになり地域には出てこないで、自治会と事業所が協力してアウトリーチできればサービスに繋がるかもしれない。 ・地域の中には、本当であれば支援が必要な方でも、サービスへつながっていないケースがあるかもしれないので、もし情報があれば、関係機関につなげられるよう情報共有をしていければいいと思う。	・動画やパンフレット等で事業所を知ってもらう
D. 運営推進会議を活かした取り組み	・引き続き運営推進会議委員の皆様、民生委員の皆様との連携をするために地域での困りごとや支援が必要と思われる方の情報共有を図っていく。	・運営推進会議の中で地域の困りごとや支援が必要と考えられる方の情報共有を継続して行っている。 ・相談があった方については、関係機関や社協地域福祉と連携し、迅速に対応できる体制を整えている。		・引き続き、運営推進会議の中で、地域の課題を共有し取り組めるよう、委員の皆様と情報共有、連携をしていく。
E. 事業所の 防災・災害対策	・策定した業務継続計画（BCP）（非常災害対策計画）を、運営推進会議委員の皆様周知し、実践的な計画にしておくため、火災の際の自治会の協力を含めた避難訓練を実施していく。また、水害時の地域の協力の在り方や運営推進委員長の役割などを具体的に検討していく。 ・水害等の緊急時には、旧養護老人ホーム等の活用も視野に町と協議を進めていく。	・火災時の訓練の他、BCP 中の「水害時等避難訓練マニュアル」に基づき、水害時の避難訓練を実施しているが、自治会の協力体制の確立や、運営推進委員長の役割の明確化をするまでには至っていない。 ・水害時の閉校後の仙美里小学校の校舎の1次避難場所としての活用を検討していく必要がある。	・仙美里元町主催の防災訓練は行なっていない。 ・委員長が何かの役割を担うというよりは、事業所が主体となり、自治会の協力を少しでも得られるようにした方がよい。	・防災・災害対策として、地域の協力を得、連携を図りながら避難訓練等を行い、水害時の避難を含めた関係機関との協議を継続して行っていく。